28PW-am008

漢方ローションのw/o型乳剤性軟膏への剤形変更とその安定性

○大北　麻友美[1], 金澤　勉[2], 小寺　一[2], 山下　美妃[1], 郡　修徳[1]([1]北海道薬大, [2]はるにれバイオ研)

【目的】「貴肌水」は地膚子と蛇床子を主原料とした漢方ローションで、アトピー性皮膚炎などに伴う皮膚の掻痒に効果があり、市販、繁用されている。今回、効果の持続性等を考慮に入れ、クリーム剤の開発について検討した。本研究では、o/w 型よりもエモリエント効果および皮膚親和性に優れている w/o 型乳剤性軟膏を種々の方法で調製し、それらの乳化状態の安定性について検討した。

【方法】クリーム剤(w/o 型)は、①数種類の界面活性剤を、溶解性に対応させて油相または水相に溶かし、油相中に水相を攪拌しながら添加する方法、②アミノ酸水溶液と界面活性剤からゲルを調製し、これを油相に分散後、この中に攪拌しながら水相を添加する方法、③両性界面活性剤と高級脂肪酸から調製した液晶を油相に分散させ、この中に水相を攪拌しながら添加する方法で調製した。これらの処方中に貴肌水原液を添加して 2.4%貴肌水原液クリーム剤を調製した。乳化状態の安定性は、調製品を 40℃に保管し、経日的に遠心分離(3000rpm,20min)後の液相の分離を肉眼で観察し評価した。

【結果・考察】①、②、③で調製したクリーム剤の中で、それぞれ安定性に優れたものを比較すると、③＞②＞①の順で、水相を多く含むクリーム剤の調製が可能であった。また、①に比べ②と③の方が、ベタつきが少なかった。さらに、③は、w/o 型特有の油分感が極めて少ないことが認められた。これらの理由については現在、検討中である。